

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/10)

学部・学科	臨床心理学部・教育福祉心理学科	職名	准教授	氏名	ナガノ マコト 長 野 真 弓
学歴	昭和63年 3月 福岡大学体育学部体育学科社会体育コース 卒業 平成 3年 3月 東京大学大学院教育学研究科スポーツ科学専修修士課程 修了 平成17年 3月 九州大学大学院人間環境学府行動システム専攻博士課程後期 修了				
学位	平成 3年 3月 教育学修士 (東京大学 修教育第926号) 平成17年 3月 人間環境学博士 (九州大学 人環博甲第95号)				
専門分野	健康科学, 運動疫学				
専門資格	健康運動指導士 (第0910645号) 保健体育中学校教諭専修免許状 (平17中専修 第0022号) 保健体育高等学校教諭専修免許状 (平17高専修 第0038号) Basic first aid provider (NPO法人日本救急蘇生普及協会, 014562)				
所属学会	昭和63年 4月 日本体育学会 (現在の所属分科会 : 日本体育測定評価学会、日本発育発達学会) 平成 2年 4月 日本体力医学会 (平成23年9月17日より評議員) 平成14年 4月 日本肥満学会 日本糖尿病学会 平成15年 2月 運動疫学研究会 日本健康支援学会 平成20年 7月 日本未病システム学会 平成21年 4月 日本健康心理学会 平成22年 5月 日本公衆衛生学会 平成23年 7月 日本ストレス学会 平成25年 7月 日本学校保健学会 平成25年10月 日本運動疫学会 (運動疫学研究会からの組織変更)				
受賞	平成 3年 7月 第1回スポーツ科学賞 (東京大学体育学・スポーツ科学研究室) 平成17年10月 2007年度日本肥満学会 推薦論文 平成18年10月 第44回日本糖尿病学会九州地方会 推薦演題				
担当 授業科目	学 部 ヒューマンパフォーマンスA・B・C, 健康の科学, 身体調節論, 初等体育				
論文指導	該当なし				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	ヒューマンパフォーマンスA	講義・演習・実習・実験	春・秋	約65名	
1	授業の概要 : 【目的】本授業では、スポーツ技術というよりもむしろ、心身の健康づくりに効果的な身体コンディショニング法を中心に学ぶとともに、仲間と楽しく身体を動かし、運動・スポーツを介したコミュニケーション能力を向上させることで、自身の生活をより活気あるものにしていこうとする態度を養うことを主目的とした。 【内容】書き込み式資料を用いて以下のワークショップ形式の授業を実施するとともに、履修者間のコミュニケーション能力促進の目的で数種類のスポーツ活動を採り入れた。 体力測定を行い、自身の体力を評価するとともに、健康への体力の重要性を理解する。 改善が必要な体力要素を認識し、その改善方法を考え、実践する。 様々なスポーツや日常動作の消費カロリーを活動量計により測定し、運動量と食事量のバランス感覚を養う。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/10)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績	1	<p>授業の概要【内容】(つづき): エアロビックダンス・ストレッチ・リラクゼーション前後の心の状態をグラフ表示し、身体コンディショニングの心への効果を確認する。 不定愁訴改善効果が高いピラティスや、自宅でも簡単にできる筋コンディショニングなど、新たなフィットネス種目を体験させ、自身に適した運動の実践を促す契機とする。</p> <p>教育活動の振り返り 教育活動の成果： 運動・スポーツを介し、学部・学科・学年を越える履修者間のコミュニケーションを促すことと並行して、高校までとは異なる心身の健康を意識した内容の体育授業を展開することで、他者とのコミュニケーション促進の手段としてのスポーツへの参加や、心身の健康のための具体的な実践方法を教授することができた。</p> <p>今後の課題： 体力に自信がない、あるいは運動が苦手な学生がより多く履修できるよう、スポーツ活動を主とするヒューマンパフォーマンスB・Cとの開講時期のバランスを調整する必要がある。</p>				
	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">科目名 健康の科学</td> <td style="width: 30%;">科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験</td> <td style="width: 20%;">実施学期 春・秋</td> <td style="width: 25%;">履修者数 約200名</td> </tr> </table> <p>授業の概要： 【目的】 1. 健康の概念や心身の健康に影響する様々な環境因子について学び、子どもから高齢者に至る全てのライフステージにおいて健やかで活力に満ちた生活を送るための知識を身につける。 2. 健康事象における科学的根拠（エビデンス）の重要性を理解し、健康情報が巷に溢れかえる中、質の高い科学的エビデンスを見極める能力を養う。 【内容】 親の管理下におかれていた高校までの生活と異なり、大学以後の生活は自由度が増す反面、生活習慣が乱れやすい。健全な社会生活を営む上で、自身の健康管理は必要不可欠であるが、健康に関する情報が交錯する現代では、誤った情報や科学的根拠のない健康法に盲目的に飛びつき、健康を損ねる事例が後を絶たない。本授業では、「健康」とは何か、さらに人間の健康に影響を及ぼす様々な因子について科学的根拠に基づき学ぶ他、自身の日々の生活習慣について考え、レポートの作成を通じて健康を見つめ直す機会を提供する。</p> <p>教育活動の振り返り 教育活動の成果： 内容が多岐にわたるため、授業内容の理解・整理がしやすいよう、書き込み式の資料を配付して授業を進めた。それによって、ノートテイクに要する時間を大幅に短縮して教員の講話に集中しやすくし、内容の理解の促進に効果があったことを学生アンケートで確認している。さらに、自身の食事内容から摂取栄養素量・カロリー等を詳細に把握できるwebサイトを活用し、結果を考察することで、生活の基本である食事を見直す機会を与えることができた。基本的なことではあるが、大講義であるため、学生が授業に集中しやすいよう、私語・遅刻対策をこまめに行ったことで、学生から受講しやすいというコメントが多数寄せられた。</p> <p>今後の課題： 受講者数が多く、大講義室での一括開講であるため、学部・学科の専門性や興味関心に合わせた授業内容・テーマを設定できるスタイルに改変する必要がある。</p>	科目名 健康の科学	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 約200名
	科目名 健康の科学	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 約200名		
<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績</p> <p>平成26年12月17日 学内：「COC全般に関するFD/SD研修」兼「COC採択記念講演会」への参加（京都文教大学G104教室）</p> <p>平成27年2月26日 学内研修会：「IRの概要と事例～中小規模大学が取り組むIRのあり方～」への参加（京都文教大学光暁館1階第1会議室）</p>						

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/10)

<p style="text-align: center;">F D 活 動 績</p>	<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 学内スポーツイベントの企画・開催に関し、正規授業時間外で学生の相談を随時受け、アドバイスを行った。 「ヒューマンパフォーマンス」の授業外での取組として実践した。学生課が主催する学内トレーニングルーム講習会やフィットネス教室への任意参加を促し、評価に加点した。 上記の取組により、学生に自らの意志でスポーツイベントを企画・開催し、多数の参加者への対応や、学内運動施設・用具の適切な利用法を学ばせるとともに、授業外で自主的に身体トレーニングを実施する契機を与えることができた。</p>
<p>H26 年度 研究課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の体力・身体活動、生活習慣と心理的特性との関連についての縦断研究 2. 中学生の心理的特性と体力・身体活動量との関連性についての縦断研究 3. 児童生徒（約8,000名）の身体活動とメンタルヘルスに関する全国大規模調査 4. 地域在住高齢者における体力・身体活動量とうつ症状・認知機能低下との関連性についての縦断研究
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成 二 十 六 (2014) 年度の研究活動の概要</p>	<p>上記課題について、以下の活動を行い、成果を得た。</p> <p>課題1： 横断的データを用いた論文が、査読あり学術雑誌（体力科学）に掲載された。 後述：（論文）2 別の学会発表テーマについても、学会からの依頼を受けて成果を論文にまとめて投稿し、査読中である。対象児童の保護者には、例年通り体力測定結果の個別フィードバックを行い、好ましい生活習慣の定着と体力向上の取り組みへの理解を促した。調査対象校にも年度報告を行い、客観的資料に基づく体力向上のための学校での取り組みについて、助言を行った。</p> <p>課題2： 民間財団の競争的外部資金を獲得して研究を進め、横断的調査の成果をまとめた報告書を提出した。引き続き、成果を学術雑誌に投稿する準備を進める一方で、縦断調査を継続中である。 後述：（学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含）および（論文）5</p> <p>課題3： 日本体力医学会の研究助成プロジェクトとして、質問紙の作成段階から使用する心理尺度や調査実務について助言を行った。昨年度から、全国多数の地域における約8,000名のデータが集積され、今年度の発育発達学会にて、成果の一部を公表した。 後述：（学会報告、学会活動）1, 3, 4</p> <p>課題4： 科学研究費基盤Aの最終年度にあたり、縦断調査の成果をまとめた報告書を2編執筆した。本報告書をもとに、査読あり学術雑誌への原著論文の投稿準備を進めている。 後述：（学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含）および（論文）3, 4</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成 二 十 六 (2014) 年度の主な研究成等</p>	<p>（著書）</p> <p>（論文）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ダンスの「発表」が気分・感情に及ぼす影響 体育専攻学生を対象とした検討」 共著、平成26年9月、スポーツパフォーマンス研究会 スポーツパフォーマンス研究第6巻（pp.143-160） 2. 「児童の体力ならびにスクリーンタイムと心理的ストレス反応との関連性 地方都市郊外の公立および都市部私立小学校における検討」 共著（筆頭）、平成27年2月、日本体力医学会 体力科学64巻1号（pp.195-206） 3. 「地域在住高齢者の体力・身体活動量および運動習慣とうつ症状に関する縦断研究：太宰府研究」 単著、平成27年3月、平成22～26年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）（研究課題番号：22240073）「多点観察による身体活動・運動量、体力と健康事象に関する運動疫学研究」成果報告書（pp.49-54） 4. 「高齢者を対象とした縦断研究への参加者と不参加者における身体・心理・社会的特性比較」 単著、平成27年3月、平成22～26年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）（研究課題番号：22240073）「多点観察による身体活動・運動量、体力と健康事象に関する運動疫学研究」成果報告書（pp.66-73）

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/10)

平成二十六(2014)年度の主な研究成等	<p>(論文 つづき)</p> <p>5. 「中学生の体力・スポーツ活動と精神的回復力との関連性の検討 中学生版精神的回復力尺度の開発とその応用」、共著(筆頭)、平成27年4月、2014年度 笹川スポーツ研究助成 研究テーマ： 子ども・青少年スポーツの振興に関する研究(研究区分：一般研究) 成果報告書 (pp.178-186)</p>
	<p>(学会報告、学会活動)</p> <p>1. 「中学生の首尾一貫感覚(ストレス対処能力)と関連する健康行動・意識の探索」、共同(筆頭)、平成26年9月、第69回日本体力医学会大会、長崎大学文教キャンパス(長崎県長崎市)</p> <p>2. 「Association between physical activity and sleep onset latency among community-dwelling older people in Japan.」GSA (Gerontological Society of America)'s 67th Annual Scientific Meeting, Washington DC, America.</p> <p>3. 「児童における業間の身体活動強度と関連する心身の特性の探索」、共同(筆頭)、平成27年3月、日本発育発達学会第13回大会、日本大学文理学部(東京都世田谷区)</p> <p>4. 「質問紙による思春期前期の身体活動、抑うつ傾向、Sense of Coherence (SOC)に関する実態調査」、共同、平成27年3月、日本発育発達学会第13回大会、日本大学文理学部(東京都世田谷区)</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>1. 地域在住高齢者における認知機能低下・うつ症状と体力・身体活動量に関する調査(連携先：九州大学基幹教育院)</p> <p>2. 児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査(連携先：岡山大学大学院教育学研究科、某小学校区生活リズム連絡協議会)</p> <p>3. 生徒の体力・身体活動量とメンタルヘルス・ストレス対処能力・生活習慣に関する調査(連携先：岡山大学大学院教育学研究科、某中学校)</p> <p>4. 思春期前期小児の身体活動とメンタルヘルスに関する全国大規模調査(平成25年度日本体力医学会プロジェクト研究課題、連携先：同志社大学、神戸大学、奈良教育大学、山口大学、佐賀大学 他)</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成22年度-平成26年度 科学研究費補助金(基盤研究A)「多点観察による身体活動・運動量、体力と健康事象に関する運動疫学研究」(課題番号22240073、研究代表者：九州大学・健康科学センター・教授 熊谷秋三)研究分担者</p> <p>平成25年度-平成27年度 日本体力医学会プロジェクト研究「児童期から生徒期における身体活動とメンタルヘルスとの関連性の検討(子どもの生活習慣と健康づくりに関する研究)」研究発起人</p> <p>平成26年度 2014年度 笹川スポーツ研究助成 研究テーマ： 子ども・青少年スポーツの振興に関する研究(研究区分：一般研究)「中学生の体力・スポーツ活動と精神的回復力との関連性の検討—中学生版精神的回復力尺度の開発とその応用—」研究代表者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>共通教育委員会委員、産業メンタルヘルス研究所研究員、「人を対象とする研究」倫理審査委員会委員</p>
年度の社会における活動	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本体力医学会評議員(委嘱)「平23.9より」 ・ 同志社大学体力医科学研究センター 嘱託研究員「平25.5より」 <p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成26年 9月 某小学校教諭への研修講師(テーマ：児童の生活習慣・体力とメンタルヘルスの実態報告および客観的資料に基づく取り組み)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/10)

(著書)

(論文)

1. 「ヒアルロン酸含有サプリメントの健常者に対する過剰摂取による安全性試験」、共著、平成21年11月、ライフサイエンス出版、薬理と治療第37巻11号 (pp.953-961)
2. 「健常者における高い不定愁訴数に関わる要因の探索」、共著(筆頭)、平成21年3月、日本末病システム学会雑誌第15巻2号 (pp.357-360)
3. 「母親の首尾一貫感覚 (Sense of Coherence; SOC)と不定愁訴との関連」、共著、平成22年6月、財団法人パブリックリサーチセンター ストレス科学研究25巻 (pp.23-29)
4. 「Association of cardiorespiratory fitness with elevated hepatic enzyme and liver fat in Japanese patients with impaired glucose tolerance and type 2 diabetes mellitus (境界型ならびに2型糖尿病を有する日本人患者における全身持久力と肝酵素高値・脂肪肝との関連性)」、共著(筆頭)、平成22年9月、Asist Group, Journal of Sports Science and Medicine Vol.9, No3, (pp.405-410)
5. 「ヤマブシタケの多機能性 ~ 中年女性におけるヤマブシタケの不定愁訴改善効果の検証 ~」、共著、平成22年8月、フレグランスジャーナル社, Aroma Research Vol.11, No3, (pp.276-283)
6. 「Reduction of depression and anxiety by 4 weeks Hericium erinaceus intake. (4週間のヤマブシタケ摂取による抑うつと不安の減少)」、共著(筆頭)、平成22年8月、Biomedical Research Press, Biomedical Research Vol.31, No8 (pp.231-237)
7. 「幼児におけるダンス動作の体得に関わる要因の探索」、共著(筆頭)、平成23年3月、京都文教大学 臨床心理学部研究報告第3集 (pp.79-89)
8. 「幼児における身体表現活動の実践・研究の課題ならびに科学的視点からの提案」、単著、平成23年3月、京都文教大学 心理社会的支援研究創刊号 (pp.29-34)
9. 「高齢者における膝痛の強度と罹患側の違いがメンタルヘルスに及ぼす影響」、共著、平成23年9月、ヘルスプロモーション理学療法研究Vol.1, No.1 (pp.21-28)
10. 「地域在住高齢者のQOL: 太宰府研究」、共著、平成24年3月、九州大学健康科学センター、健康科学Vol.34 (pp.43-53)
11. 「健常者における不定愁訴数に関連する因子の探索 生化学的指標、生活習慣および心理社会的因子を含めた予備的検討」、共著(筆頭)、平成25年8月、日本末病システム学会雑誌第19巻2号 (pp.15-22)

(学会報告、学会活動)

1. 「メンタルヘルス維持・改善への運動疫学的アプローチの必要性 糖尿病患者のメンタルヘルスと体力・病態との関連性の疫学的検討」、共同(シンポジスト)、平成21年9月、日本健康心理学会第22回大会、早稲田大学国際会議場
2. 「地域在住高齢者の精神健康度と体力に関する疫学研究」、共同、平成21年9月、第64回日本体力医学会大会、新潟県新潟市朱鷺メッセ
3. 「糖尿病患者における不眠の有症率とその関連因子」、共同、平成21年9月、第64回日本体力医学会大会、新潟県新潟市朱鷺メッセ
4. 「母親のストレス対処能力と不定愁訴との関連」、共同、平成21年9月、第64回日本体力医学会大会、新潟県新潟市朱鷺メッセ
5. 「Obesity, metabolic syndrome and sleep disturbances in Japanese male patients with diabetes mellitus. (日本人男性糖尿病患者における肥満、メタボリックシンドロームおよび睡眠障害)」、共同、平成22年1月、The 1st International Congress on Abdominal Obesity, Hong Kong, China
6. 「ヤマブシタケ含有食品の記憶学習および精神機能性に与える効果 心理学的手法による食品摂取の有効性評価」、共同、平成22年2月、第24回熊本県産官学技術交流会、グランメッセ熊本
7. 「Metabolic syndrome and sleep disturbances in Japanese male patients with diabetes mellitus. (日本人男性糖尿病患者におけるメタボリックシンドロームと睡眠障害)」、共同、平成22年2月、The 3rd International Conference on Advanced Technologies and Treatments for diabetes, Basel, Switzerland.

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/10)

(学会報告、学会活動 つづき)

8. 「地域在住高齢者の身体活動量とうつ症状との関連性：太宰府研究」、共同、平成22年3月、第11回日本健康支援学会年次学術集会、早稲田大学
9. 「閉じこもり高齢者の特性とQOL・首尾一貫感覚との関連性」、共同、平成22年3月、第11回日本健康支援学会年次学術集会、早稲田大学
10. 「地域在住高齢者の身体活動と認知機能の関連性 - 太宰府研究 - 」、共同、平成22年3月、第11回日本健康支援学会年次学術集会、早稲田大学
11. 「地域在住高齢者の身体活動とQOLとの関連性：太宰府研究」、共同、平成22年3月、第11回日本健康支援学会年次学術集会、早稲田大学
12. 「地域在住高齢者の身体活動量の実態：太宰府研究」、共同、平成22年3月、第11回日本健康支援学会年次学術集会、早稲田大学
13. 「The relationship of physical activity and appearance of obesity in Japanese community dwelling elderly. (地域在住高齢者における身体活動量と肥満の出現率との関連性)」、共同、平成22年7月、The 11th International Congress on Obesity, Stockholm, Sweden
14. 「ダンス授業における学習者の感情・気分変容について」、共同、平成22年9月、第65回日本体力医学会大会、千葉商科大学 / 和洋女子大学 (千葉県市川市)
15. 「地域在住高齢者における認知機能低下・うつ・閉じこもりの重複と身体活動量との関連性」、共同 (筆頭)、平成22年9月、第65回日本体力医学会大会、千葉商科大学 / 和洋女子大学 (千葉県市川市)
16. 「地域在住高齢者の身体活動量と抑うつとの関連性」、共同、平成22年10月、第69回日本公衆衛生学会総会、東京国際フォーラム (東京都千代田区)
17. 「高齢者における身体活動量とうつ症状との関連性」、共同、平成23年1月、第21回日本疫学会学術総会、北海道立道民活動センター (札幌市)
18. 「高齢者における膝痛の強度と罹患側の違いがメンタルヘルスに及ぼす影響：太宰府研究」、共同、平成23年2月、第12回日本健康支援学会年次学術集会、九州大学医学部コラポステーション (福岡県福岡市)
19. 「地域在住高齢者の認知機能の実態および運動習慣の影響に関する比較研究」、共同、平成23年2月、第12回日本健康支援学会年次学術集会、九州大学医学部コラポステーション (福岡県福岡市)
20. 「幼児の身体的パフォーマンスに関わる要因の探索 ダンス動作の体得を評価指標として」、共同 (筆頭)、平成23年2月、日本体育測定評価学会第10回記念大会、石川県政記念しいのき迎賓館 (石川県金沢市)
21. 「The relevance between children's physical fitness and parents' living habits. (子どもの体力と両親の生活習慣との関連性)」、共同、平成23年8月、The 16th Annual Congress of EASESS 2011, Yeungnam University, Daegu, Korea
22. 「地域在住女性高齢者のBMIとうつ状態との関連性：太宰府研究」、共同、平成23年9月、第66回日本体力医学会大会、海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ (山口県下関市)
23. 「3軸加速度計を用いて評価した身体活動量と慢性的運動器疼痛との関連性 地域在住高齢者を対象として : 太宰府研究」、共同、平成23年9月、第66回日本体力医学会大会、海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ (山口県下関市)
24. 「独居高齢者の体力、生活習慣、メンタルヘルスおよび身体活動量の特性に関する調査研究：太宰府研究」、共同、平成23年9月、第66回日本体力医学会大会、海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ (山口県下関市)
25. 「地域在住高齢者の身体活動量、体力と認知機能について：太宰府研究」、共同、平成23年9月、第66回日本体力医学会大会、海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ (山口県下関市)
26. 「地域在住高齢者のうつ状態と身体活動量：太宰府研究」、共同、平成23年9月、第66回日本体力医学会大会、海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ (山口県下関市)

平成二十一〜二十五 (2009〜2013) 年度の主な研究成果等

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/10)

平成二十一〜二十五 (2009〜2013) 年度の主な研究成果等

(学会報告、学会活動 つづき)

27. 「地域在住高齢者の身体活動とQOLとの関連」、共同、平成23年9月、第66回日本体力医学会大会、海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ (山口県下関市)
28. 「学習者のシャイネス感情がダンス時の活動量に及ぼす影響」、共同、平成23年9月、第66回日本体力医学会大会、海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ (山口県下関市)
29. 「学習者の心理状態がリズムダンス時の身体活動量に及ぼす影響」、共同、平成23年9月、第62回日本体育学会、鹿屋体育大学 (鹿児島県鹿屋市)
30. 「精神的健康度と生活習慣行動特性ならびに生活習慣病危険因子との関連性」、共同 (筆頭)、平成23年11月、第27回日本ストレス学会学術総会、東京国際交流館 (東京都江東区)
31. 「認知機能に及ぼす下肢運動機能強化プログラムの効果について」、共同 (筆頭)、平成24年2月、第13回日本健康支援学会、筑波大学 (茨城県つくば市)
32. 「地域在住女性高齢者のBMIと老年症候群指標との関連性：太宰府研究」、共同、平成24年2月、第13回日本健康支援学会、筑波大学 (茨城県つくば市)
33. 「地方都市郊外の公立小学校児童における体力とメンタルヘルスとの関連性」、共同 (筆頭)、平成24年3月、第13回日本発育発達学会、名古屋学院大学 (愛知県名古屋市)
34. Nagano M, Matsuo E, Moriyama Y, Nofuji Y and Kumagai S.: Association between physical activity and complication of cognitive decline, depressive symptom and homebound in community-dwelling Japanese elderly: The Dazaifu Study. The 4th International Congress on Physical Activity and Public Health, Sydney, Australia, Oct. 31-Nov. 3, 2012.
35. 「ダンスの「発表」が気分・感情に及ぼす影響 ~ 大学生を対象とした検討 ~」、共同、平成25年8月、日本体育学会第64回大会、立命館大学びわこ・くさつキャンパス (滋賀県草津市)
36. 「異なる社会環境下にある児童の体力とメンタルヘルス・欠席日数との関連性の検討」、共同 (筆頭)、平成25年9月、第68回日本体力医学会大会、日本教育会館学術総合センター共立講堂 (東京都千代田区)
37. 「健常成人女性の不定愁訴と身体活動量との関連」、共同、平成25年9月、第68回日本体力医学会大会、日本教育会館学術総合センター共立講堂 (東京都千代田区)
38. 「地域在住高齢者における不眠の関連要因について：太宰府研究」、共同、平成26年3月、第15回日本健康支援学会年次学術大会、電気通信大学 (東京都調布市)
39. 「児童の体力とメンタルヘルス・ストレス対処能力・欠席日数との関連性 学業ストレスナーに着目して」、共同 (筆頭)、平成26年3月、日本発育発達学会第12回大会、大阪成蹊大学 (大阪府大阪市)

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

総説：

1. 「Metabolic fitness の測定」、単著、平成21年4月、日本臨牀社、日本臨床67巻増刊号2 (pp.192-196) 調査・研究報告書等：
1. 「感性評価手法を応用した産学連携 共同研究事例報告」、共著、平成21年5月、産学連携学会 産学連携学Vol.5, 2 (pp.37-43)
2. 「地域高齢者における認知機能低下・うつ・閉じこもりの予測因子の検討 社会・経済・心理的因子が認知機能低下・うつ・閉じこもりにもたらす影響を探る」、共著 (筆頭)、平成22年10月、明治安田こころの健康財団2009年度研究助成論文集 第45号 (pp.205-212)
3. 「園児の生活習慣と身体活動に関する調査報告書」、単著、平成22年11月、提出先：京都文教短期大学附属家政城陽幼稚園
4. 「運動・社会疫学研究の成果に基づく認知症予防プログラムの実践と評価」、共著 (筆頭)、平成22年12月、(財)日本生命財団 高齢社会実践的研究助成 認知症高齢者に関する予防からケアまでを探求する実践的研究 第1年度報告書

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (8/10)

平成
二一
一〇
二五
(2009～2013)
年度の
主な
研究
成果
等

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)

5. 「精神機能と生活習慣行動特性およびメタボリックシンドローム出現との関連性の検討」、共著 (筆頭)、平成23年3月、平成20-22年度科学研究費補助金 (基盤研究C、課題番号20500598、研究代表者) 研究成果報告書
6. 「新規糖尿病患者に対する対面での運動介入研究 介入前の運動行動特性と病態の横断的分析」、単著、平成23年3月、厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業) 大規模コホートをを用いた生活習慣病の一次予防のための運動量策定に関する運動疫学研究、平成22年度分担研究報告書
7. 「子どもの生活習慣・体力と保護者の生活習慣に関する調査報告書」、共著 (筆頭)、平成23年3月、提出先: 某小学校区生活リズム連絡協議会
8. 「インターネットを利用した感性評価システムによる産学連携研究 共同研究事例報告」、共著、平成23年5月、産学連携学Vol.7 No.2(pp.23-28)
9. 「運動・社会疫学の成果に基づく認知症予防プログラムの実践と評価」、共著 (筆頭)、平成23年12月、(財) 日本生命財団 高齢社会実践的研究助成 認知症高齢者に関する予防からケアまでを探究する実践的研究、最終年度報告書
10. 「新規糖尿病患者に対する対面での運動介入研究」、単著、平成24年3月、厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業) 大規模コホートをを用いた生活習慣病の一次予防のための運動量策定に関する運動疫学研究、平成23年度分担研究報告書
11. 「地方都市郊外の公立小学校児童における体力とメンタルヘルスに関する調査報告」(報告)、共著 (筆頭)、平成24年3月、京都文教大学 心理社会的支援研究第2集 (pp.67-79)
12. 「子どもの生活習慣・体力と保護者の生活習慣に関する調査報告書」、共著 (筆頭)、平成24年3月、提出先: 某小学校区生活リズム連絡協議会
13. 「幼児・児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査報告書」、共著 (筆頭)、平成24年3月、連携先: 某小学校区生活リズム連絡協議会
14. 「児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査報告書」、共著 (筆頭)、平成24年3月、連携先: 京都文教短期大学附属小学校

学術講演:

1. 第19回ニッセイ財団高齢社会ワークショップ 高齢社会実践的研究成果報告「運動・社会疫学の成果に基づく認知症予防プログラムの実践と評価」、平成23年10月、日本生命日比谷ビル (東京都千代田区)
2. 「児童の体力とメンタルヘルスとの関連性 生活習慣、養育者の意識および学業成績を含めた検討」、平成23年12月、九州大学リサーチコア「身体運動を通しての社会貢献」第3回公開講演会、九州大学箱崎キャンパス (福岡市)

エッセイ:

1. 「子どものパワーに魅せられて」、単著、平成23年3月、京都文教短期大学附属家政城陽幼稚園 平成21年度子育てエッセイ集 (pp.5-6)

(調査活動)

平成21年 4月

地域在住高齢者における認知機能・うつ・閉じこもりと体力・身体活動および心理社会的要因との関連性の検討 効果的な介護予防対策に関する調査研究 (連携先: 福岡県太宰府市)

平成21年 7月-現在

地域在住高齢者における心身の健康と体力・身体活動量に関する調査 (連携先: 九州大学健康科学センター)

平成21年 9月

ヤマブシタケ含有食品の記憶学習および精神機能性に与える効果の検証 (連携先: 株式会社阿蘇バイオテック)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (9/10)

平成二十一〜二十五(2009〜2013)年度の主な研究成果等

(調査活動 つづき)

平成22年 4月-平成23年 3月 (平成21年4月より継続)

地域在住高齢者における認知機能・うつ・閉じこもりと体力・身体活動および心理社会的要因との関連性の検討 - 効果的な介護予防対策に関する調査研究 - (連携先: 福岡県太宰府市)

平成22年 9月-11月

京都文教短期大学付属家政城陽幼稚園における幼児の身体表現活動・生活習慣に関する調査

平成22年 6月-平成23年 3月

某小学校・幼稚園・保育園における子どもの心身の健康に関する調査

平成22年11月-平成23年 3月

福岡県篠栗町在住高齢者への運動による認知機能低下予防プログラム実践にかかる調査

平成22年 1月-平成23年 8月

運動による認知症予防プログラムの効果評価 (連携先: 福岡県糟屋郡篠栗町、九州大学、株式会社健寿)

平成22年6月-現在

幼児・児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査 (連携先: 某小学校区生活リズム連絡協議会)

平成23年3月-現在

児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査 (連携先: 京都文教短期大学附属小学校)

平成24年 5月

児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査 (連携先: 京都文教短期大学附属小学校)

平成24年11月

1. 地域在住高齢者における心身の健康と体力・身体活動量に関する調査 (連携先: 九州大学健康科学センター)

2. 幼児・児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査 (連携先: 某小学校区生活リズム連絡協議会)

平成25年 4月 1. 児童の体力・身体活動量と心身の健康に関する調査 (連携先: 岡山大学大学院教育学研究科、某小学校区生活リズム連絡協議会)

2. 地域在住高齢者における認知機能低下・抑うつと体力・身体活動量に関する調査 (連携先: 九州大学基幹教育院)

3. 生徒の体力・身体活動量とメンタルヘルス・ストレス対処能力・生活習慣に関する調査 (連携先: 岡山大学大学院教育学研究科、某中学校)

平成25年 9月

思春期前期小児の身体活動とメンタルヘルスに関する全国大規模調査 (平成25年度日本体力医学会プロジェクト研究課題、連携先: 同志社大学、神戸大学、奈良教育大学、山口大学、佐賀大学 他)

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

平成20年度-平成21年度

科学研究費補助金 (萌芽研究) 「脳由来神経栄養因子の運動生理学的意義に関する研究」(課題番号20650105、研究代表者: 九州大学・健康科学センター・教授 熊谷秋三) 研究分担者

平成20年度-平成22年度

科学研究費補助金 (基盤研究C) 「精神機能と生活習慣行動特性およびメタボリックシンドローム出現との関連性の検討」(課題番号20500598) 研究代表者

平成21年度

(財) 明治安田こころの健康財団研究助成 社会学・社会福祉学的研究 「地域高齢者における認知機能低下・うつ・閉じこもりの予測因子の検討」 研究代表者

平成21年 9月-平成23年 9月

(財) 日本生命財団 高齢社会実践的研究助成 認知症高齢者に関する予防からケアまでを探究する実践的研究 「運動・社会疫学の成果に基づく認知症予防プログラムの実践と評価」 研究代表者

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (10/10)

<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含 つづき) 平成21年度-平成23年度 厚生労働省科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「大規模コホートを 用いた生活習慣病の一次予防のための運動量策定に関する運動疫学研究」(研究代表者： 九州大学・健康科学センター・教授 熊谷秋三) 研究分担者 平成22年度- (5年間) 科学研究費補助金 (基盤研究A) 「多点観察による身体活動・運動量、体力と健康事象に関す る運動疫学研究」(課題番号22240073、研究代表者：九州大学・健康科学センター・教授 熊 谷秋三) 研究分担者 平成22年度-平成23年度 財団法人総合健康推進財団第27回一般研究奨励助成事業「高齢者の身体活動量の実態とう つ・認知機能との関連性」(研究代表者：九州大学・健康科学センター・教授 熊谷秋三) 共 同研究者 平成23年度- (3年間) 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 (基盤研究C) 「児童における体力ならびに定量 化された身体活動量と心理的因子との関連性」(課題番号23601026) 研究代表者 平成25年度- (3年間) 日本体力医学会プロジェクト研究「児童期から生徒期における身体活動とメンタルヘルスと の関連性の検討 (子どもの生活習慣と健康づくりに関する研究)」研究発起人</p>
	<p>(学内活動) 平成22年 4月 図書館・情報委員会 (現・図書館委員会) 委員「平26.3まで」 産業メンタルヘルス研究所研究員「現在に至る」 平成25年 4月 共通教育委員会委員「現在に至る」 「人を対象とする研究」倫理審査委員会委員「現在に至る」</p>
<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動</p>	<p>(NPO法人等の団体への参画) 平成23年 9月 日本体力医学会評議員 (委嘱) 「現在に至る」 平成24年 3月 第14回日本健康支援学会年次学術大会 実行委員・座長、於：同志社大学 平成25年 5月 同志社大学体力医科学研究センター 嘱託研究員「現在に至る」 (小中高との連携授業の講師) 平成24年10月 京都文教高等学校ALP「運動にまつわるウソ・ホント」、於：同校 (自治体や企業における研修等の講師) 平成22年 5月 大阪府民共済「脂肪を減らす生活の工夫」(講演) 対象：メタボ撃退教室を受講する 一般市民 平成23年 1月 某小学校区生活リズム連絡協議会・研修「こどもたちの心身の健康について ～子 どもの生活習慣・体力と保護者の生活習慣に関する調査結果より～」対象：小学校 教諭 平成23年10月 京都文教大学産業メンタルヘルス研究所主催産業心理臨床家養成プログラム講 師、講義科目：健康科学論、於：キャンパスプラザ京都 サテライト教室 平成25年 8月 1. 小学校教諭への研修講師 (テーマ：児童の生活習慣・体力とメンタルヘルス 学業成績の向上を目指して) 於：某小学校 2. 京都文教大学産業メンタルヘルス研究所主催産業心理臨床家養成プログラム講 師、講義科目：健康科学論、於：キャンパスプラザ京都 サテライト教室</p>